


三陸復興国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム2025の概要①

2023(R5)年度の取組

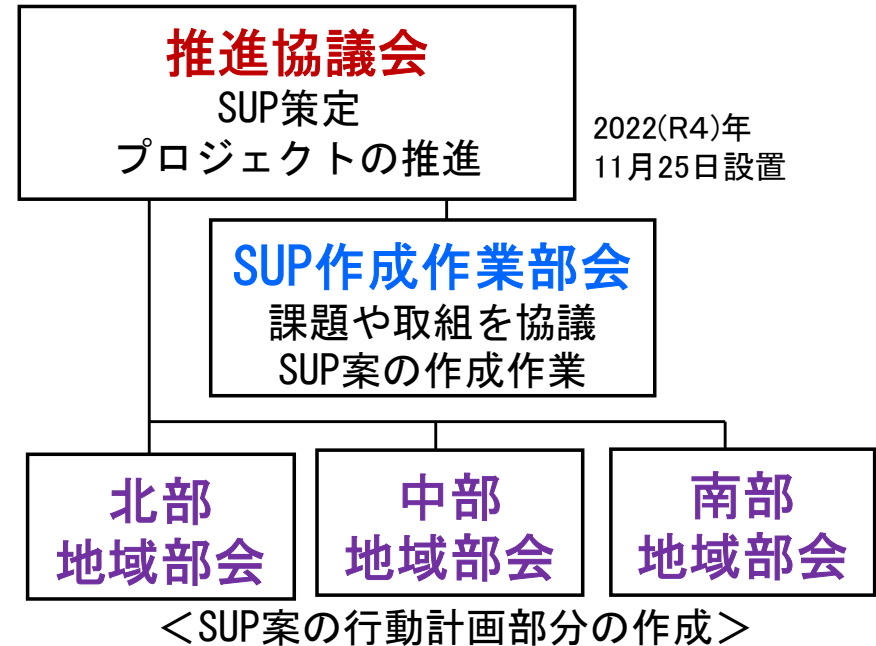
ステップアッププログラム(SUP)の策定に向け 各会議での議論や検討を行った

- ・地域部会(北部・中部・南部) → 各2回(計6回)
3つの地域毎に現状と課題を深く掘り下げ、公園全体として掲げた取組方針のもと、目標の達成に向けた取組を検討
- ・SUP作成作業部会 → 2回
地域毎の特徴を活かし、南北につなげる公園全体の取組を含めたSUP案を作成
- ・推進協議会 → 2回
SUP案を精査し、決定  **2023(R5)年12月策定**
文教大学国際学部の海津ゆりえ教授から、三陸SUPの意義について講演

SUPの策定に係るポイントと今後について

- ・検討作業には構成員のほか、地域の観光関係者の参画を促し、対面及びオンラインのワークショップ方式で行なうなど、小さな気づきを大切にし極力反映するように努めた。
- ・長大な海岸公園エリア各地に散りばめられた魅力をつなげるため、観光船や連絡船等洋上コンテンツを一体化したプロモーションやみちのく潮風トレイルのストーリーを明確にするプロジェクトを掲げている。
- ・今後は、これらプロジェクトを遂行していく過程において、関係者の一体感の醸成と地元住民等の参画を広げていくことが鍵となる。

【体制】



【これまでの主な経緯】

2022(R4)年度

- ・国機関、県、市町村、観光協会、DMO、交通事業者などで構成する推進協議会を設置
- ・推進協議会2回とSUP作成作業部会3回開催
- ・江崎貴久委員からの現地視察や助言



部会でのワークショップ



オンラインでの議論



海津教授の講演



三陸復興国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム2025の概要②

利用推進の 方向性

- ・南北に長い海岸線という国立公園の特徴を生かす
- ・交通手段、移動の楽しみ方の多様性を生かす
- ・南北を「一本の旅路」にすることで、各地域に潜む魅力を引き出す
- ・地域間の連携(つながり)を強くする

目標

数値

- ・訪日外国人利用者数 → 新型コロナウイルス影響前のレベルまで回復
(2019年:2.3万人)
- ・国内利用者数 → 公園改編後に最も利用者数の多かったレベルまで回復
(2019年:410万人)

質

- ・上質なツーリズムの提供
- ・「今だけ」「ここだけ」しか体験できないコンテンツの造成や既存コンテンツの磨き上げ
- ・南北250kmに延びる長大な公園エリアをつなげるストーリーを提案

取組の方針

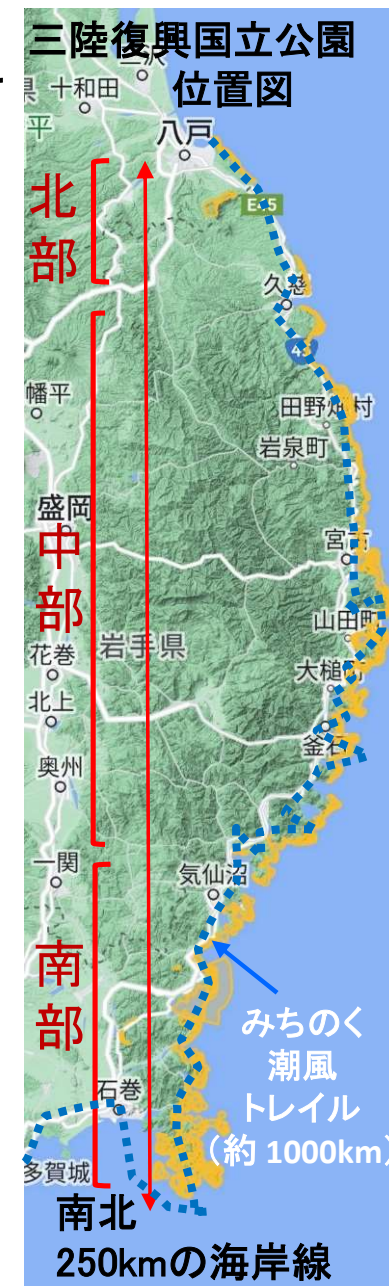
1. エリアをつなぐストーリーの提案
2. ストーリーを彩るコンテンツの磨き上げ
3. 多様な連携による魅力づくりや誘客プロモーションの実施
4. 快適性や利便性の向上
5. ウィズコロナ時代の多様なニーズに応じたサービスの提供
6. 自然と調和し地元還元される「持続可能な観光」の実現



みちのく潮風トレイル



各地で運行される
遊覧船や漁船クルーズ



優先的・重点的な取組

公園全域および複数の地域をまたぐ取組

★洋上コンテンツの一体的 プロモーション

三陸沿岸各地の観光船、漁船クルーズ、連絡船を巡る旅のモデルコースやツールを造成



★みちのく潮風トレイルの インタープリテーション 計画

ストーリーを明確にし、ブランディング化と国内外へ向けた広報戦略の検討



★眺望・景観の改善

展望地等の眺望確保のため現状把握や現行制度を踏まえたルールづくりや通景改善計画の策定を検討



北部地域の取組

★利用拠点の再生

種差海岸エリアにおいて質の高い自然体験ができる宿泊施設の再整備や誘致の検討



中部地域の取組

★利用環境の充実

きれいで安全で誰もが楽しめる優しい海水浴場を認証する「国際環境認証: ブルーフラッグ」の取得を推進



南部地域の取組

★ゴミ問題対応

海岸及び道路沿いの不法投棄ゴミが多いことから、関係者間による連携を密にし、マナー向上のための啓発やゴミ回収の方法等を検討

